

認証評価結果に対する改善報告書

平成30年7月2日

1. 大学名：日本映画大学

2. 認証評価実施年度：平成28年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：2-1

映画学部映画学科の収容定員充足率が0.7倍を下回っており、早急な改善が必要である。

4. 改善状況及び結果

基準項目2-1について

平成29年度より、入学定員を140人から125人に変更し、編入学についても2年次20人、3年次10人を平成29年度から2年次5人のみに変更した。これにより、平成30年度時点の収容定員数が560人となり、平成30年4月の入学者数が129人と入学定員を上回ったため、平成30年5月1日時点の在籍者数が399人となり、収容定員充足率が0.7倍を上回る結果となった。

また、そのような結果にいたるもう一つの要因としては、中国人留学生の増加が挙げられる。平成30年5月1日時点の在籍者数399人のうち留学生が121人で、その国別内訳は、中国105人、台湾6人、韓国8人、アメリカ1人、ニュージーランド1人となっている。

また、入学定員125人を上回った平成30年4月の入学者129人についても留学生は59人で、その内訳はアメリカ1人、韓国1人、台湾1人、中国56人で中国からの留学生が全体の94%を超えている。

このように中国人留学生が著しく増えた理由としては、平成26年4月に「北京電影学院」と学術交流協定を締結したことが挙げられる。

「北京電影学院」は国立の映画大学であり、競争率200倍ともいわれる難関校で、中国で映画を学びたいと思う若者にとってあこがれの大学であり、「北京電影学院」と本学が学術交流協定を締結し相互交流を続けているという情報が中国国内に徐々に浸透し、そのことが中国人留学生の本学への志望動機を高め、増加の要因となった。

同学院とはその後も今日まで交流事業を継続して行っており、平成30年3月には、同学院の教員と学生、計30人が来日し、本学及び文化庁、国際交流基金、公益財団法人ユニジャパンとの共催で「日中平和友好条約締結40周年記念・日中青年映画交流フォーラム」を開催。両大学の優秀シナリオの研究会や両大学の学生作品の上映、シンポジウムなどを学内のみならず一般市民向けに行い好評を得た。

また、平成28年度第9回入試委員会（11月25日）において、外国人留学生の募集を強化するため、留学生対象説明会の実施や入学環境の改善に努めることなどが報告され、また、留学生の日本語コミュニケーション能力の育成を目的とした入学前教育について、教職員・在学留学生が共同で進めていくことが確認されている。このような全学

を上げての取り組みも、留学生獲得に良い結果をもたらしている。

さらに、入試広報部による「学生募集イベント」や高校訪問等を継続して実施することで、日本人の入学者も増えてきており、入学者の増加と入学定員の変更が重なり、収容定員充足率を上げる結果となった。

## 5. エビデンス（根拠資料）一覧

### 基準項目2-1の資料

1. 平成28(2016)年度及び平成29(2017)年度学生募集要項入学試験早見表
2. エビデンス集データー編 表2-1  
学部、学科別在籍者数（過去5年間）
3. 平成30年度 学校基本調査 学校調査票（大学）外国人学生調査票
4. 平成30年度 学校法人基礎調査 日本私立学校・共済事業団  
最低在学年限超過学生数等（大学）平成30年5月1日 現在
5. 「北京電影学院」との学術交流協定書
6. 「日中平和友好条約締結40周年記念・日中青年映画交流フォーラム」本学ホームページの記事
7. 平成28年度 第9回入試委員会議事録
8. 教授会提出資料「学生募集イベント等広報活動・進行状況一覧」